

令和元年度(2019年度)理事会のポイント(第1回から第13回理事会)

第1回 令和元年(2019年)6月30日理事会

(主な議案)

- ・総会での理事承認を受けて、第1回理事会を開催し、代表理事(会長)として太田雄貴を選任(再任)しました。

第2回 令和元年7月13日理事会

(主な議案)

- ・協会事務局の移転について、以下の通り承認しました。

主たる事務所移転先: 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

移転の時期: 令和元年7月13日

- ・役付理事任命について、以下の通り承認しました。

| | |
|------|-------|
| 副会長 | 山本 正秀 |
| | 齊田 守 |
| | 末松 英司 |
| 専務理事 | 宮脇 信介 |
| 常務理事 | 佐藤 衛 |
| | 飯田 徳光 |
| | 福田 佑輔 |
| | 浅井 直樹 |
| | 蕭 敬如 |

- ・登録遅延料(登録規定第7条第2項)について審議しました。本年については既に登録遅延料を請求すべき期間に入っていることにくわえて、その水準についてはさらに議論が必要との意見が大勢を占めたことから、本年は登録遅延料を徴収しないこととするともに、来年度以降の登録遅延料の取扱いについては継続審議としました。

(主な協議事項)

- ・協会組織構成の件: 当協会の組織体制について議論しました。
- ・日本フェンシング協会殿堂入り創設の件: 当協会に長年に亘り貢献された方を表彰し殿堂入りさせるという構想について議論しました。
- ・協会メールアドレスの取り扱いの件: 当協会のメールアドレス管理の方法について議論しました。

(主な報告事項)

- ・学校訪問の件
- ・2020委員会第2回議事録およびDT業務報告の件

第3回 令和元年8月25日理事会

(主な議案)

- ・協会組織構成について審議しました。一部修正を加えて、他は原案どおりでこれを承認しました。詳細はホームページに掲示致します。
- ・委員会運営規程について審議しました。内容について、さらに吟味すべきとして、継続審議することとなりました。
- ・協会が競技会について後援・協賛・主催等に関する規則について審議しました。後援・協賛・主催を認可する場合の条件や、主催する場合の条件を明確とすべきとの意見が出され、継続審議することとなりました。
- ・当協会が新規に設定する殿堂入り表彰規程について審議しました。選出は理事会にて決定とすべき等の意見が出され、本日の審議を踏まえて原案を法務委員会において修正することを条件として承認しました。
- ・テストイベント実施の体制について承認しました。

(主な報告事項)

- ・茨城国体の実施概要について
- ・2018/2019シーズンの競技結果、世界選手権大会結果、男子エペ無意欲試合について
- ・コンプライアンス案件について
- ・2020報告について

第4回 令和元年9月29日理事会

(主な議案)

- ・スポーツ庁のガバナンスコードの策定を受け、ガバナンス確保のための一連の作業体制について審議し、承認しました。
- ・継続となっていた委員会運営規程策定について審議し、承認しました。
- ・新たに実施する運びとなった殿堂入り表彰について、山本耕司氏、田淵和彦氏の殿堂入りを審議し、承認しました。
- ・利益相反規程策定の準備について協議しました。

(主な報告事項)

- ・ 2019 世界ベテラン選手権派遣選手名簿について
- ・ 当協会の構造的問題と対応について
- ・ ルール・審判委員会組織について
- ・ 小中学生海外派遣事業について
- ・ コンプライアンス案件について
- ・ 強化に係る予算の執行状況について
- ・ 2020 東京オリンピック FIE への推薦審判員名簿について
- ・ サプリメント回収について

第5回 令和元年 10 月 27 日理事会

(主な議案)

- ・2022 世界選手権を日本に誘致することを本年のFIE総会に上程することについて審議し、半年程度を目処として、開催地並びに大会概要を定めることを条件とし、これが満たされない場合には開催申し出を引き下げることが出来ることを条件として、承認しました。なお、検討のため委員会を設置することとしました。
- ・2020 年鹿児島国体開催要項について審議し、これを承認しました。なお、日本フェンシング協会主催の大会におけるジュニア以下のカテゴリーの防具・武器基準について競技会事業本部と普及育成事業本部にて検討し、その結果を踏まえて、必要に応じ計画的に大会要項等の変更手続きを行うことが付け加えられました。
- ・倫理・懲戒規定改正について審議し、一部技術的な修正を加えて、これを承認しました。変更の主旨は、①同規定に協会コーチを明確に盛り込むこと、②内部通報窓口担当者に秘密保持義務を課すこと、③新しい組織体制との整合性を確保することです。
- ・情報開示窓口設置について協議しました。同窓口を設置する目的は、情報開示により当協会運営の透明性を確保することです。

(主な報告事項)

- ・NTC 利用について
- ・全日本団体戦役員について
- ・総務企画(広報)委員会委員名簿更新について
- ・医学委員会名簿について
- ・2020 委員会会議議事録について

第6回 令和元年 11 月 24 日理事会

(主な議案)

- ・謝金規程変更について審議し、これを承認しました。なお、当協会負担で上乘せすることが可能なのか、支給基準に幅を持たせることが可能なのかなどについて、本日欠席している福田佑輔強化本部長を含めて、さらに議論をしていくこととなりました。
- ・委員会運営規程改正の件について審議し、これを承認しました。
- ・ユニバーシアード選手選考会主管の変更について審議し、これを承認しました。この決定により、本選考会の主管は、日学連から本協会(強化本部)に変更となります。
- ・登録規程の改定について協議しました。現行規程第11条の別団体の登録に関し、実態に即した改定を行うべきとの意見が出され、本件に関しては、事業本部連絡会において引き続き検討していくこととなりました。

(主な報告事項)

・倫理委員会委員名簿について

なお、本報告に関しては、本理事会で成立した改正委員会運営規程に従って、他委員会委員とともに、理事会承認手続きを経ることとなりました。

・安全対策(FIE 新ルールの適用)について

第7回 令和2年 1 月 26 日理事会

(主な議案)

- ・会長不在の場合でも理事会が開催出来るよう、定款変更の手続きに入ることを審議し、承認しました。
- ・弁護士顧問契約を結んでいる井口加奈子理事の異動にともない、同契約の変更について審議しました。同理事が顧問弁護士として有効に機能していることを確認する一方、契約手続きについて整理が必要との意見等から、次回理事会で会長提案とし継続審議することとしました。
- ・日本スポーツグランプリ推薦について審議しました。協会ホームページを通じて周知を図るべきとの意見等から、次回理事会で継続審議することとしました。
- ・後援・協賛・主催等に関する規則(修正案)について審議しました。具体的な対象競技会の記載については別添とする等の修正を加えて、これを承認しました。
- ・審判員表彰を新たに行うことについて審議しました。審判員を増やし国際的に活躍できる審判員を送り出すことが必要等との意見が出され、この設置を承認するとともに、表彰委員会の取り扱いとし、予算についても表彰委員会と協議の上、来期に計上することとしました。

(主な報告事項)

- ・東京 2020 対策委員会について
- ・高円宮杯エントリーミスの対応について
- ・今期の収支状況と収入不足に関する対応について
- ・ガバナンスコード適合審査について
- ・高体連加盟校へのコーチ用プロテクター配布について
- ・会計事務所変更について
- ・アスリート委員会によるファン感謝祭実施報告について
- ・予算執行状況報告について

第8回 令和2年3月1日理事会

(主な議案)

- ・2020 年第 44 回年全国高校選抜大会のコロナウイルス対応について審議しました。共催である全国高等学校体育連盟のフェンシング専門部長釜井昭人氏に状況の説明をいただきました。新型コロナウイルス感染の影響で都道府県の決定で学校が休校しており実質的に活動休止状態の中、開催地の対応も踏まえ、大会の中止を承認しました。
- ・2020 年 3 月総会招集について審議し、承認しました。尚、新型コロナウイルス感染症の影響により正会員が一同集っての総会開催は行わず書面による議決権行使による総会決議を行うこととなりました。
- ・2020 年事業計画・予算案について審議し、承認しました。
- ・弁護士顧問契約について審議し、承認しました。利害関係人である井口理事を除く全会一致でこれを承認しました。なお、財政状況等を鑑みた特別な対応であることを踏まえ、今後の弁護士顧問契約の方針についてガバナンス確保の検討の中で議論することとなりました。
- ・日本スポーツグランプリについて審議し、候補者を承認しました。ベテラン委員会から推薦された立花良子氏を当協会として日本スポーツ協会に推薦致します。
- ・2027 年度長野国体試合会場について審議しました。同一敷地内になる 2 施設で開催すること等について開催地から要望がありましたが、競技運営上の負担等を考え、再度開催県に検討していただくこととして、審議提案差し戻しとなりました。
- ・定款変更(追加分)について審議しました。審議の結果業務執行理事が年 4 回の業務執行状況報告をする従来通りとし、提案者は審議提案を取り下げました。
- ・理事会運営規程及び議事録作成要項について審議しました。審議の結果、議事録の原案を事務局にて作成対応することや、理事候補者の理事会立ち会いについての文言を削除する等の修正を行うことを条件として承認しました。
- ・登録規程改定について審議しました。登録規程第 11 条第 2 項内ブロック予選会の開催日をブロック予選会申込期日に変更する調整を行い、提案を承認しました。
- ・コーチ行動規範の改定について審議しました。コーチの適応範囲について再度検討を要する

として、継続審議となりました。

- ・代表選手行動規範の改定について審議し、承認しました。
- ・協会決算に関わる規程類整備、剰余金解消計画について審議し、承認しました。

(主な協議事項)

・ガバナンスコード現状と今後の対応方針について協議しました。今回の議論を踏まえて、適合性審査に対する具体的な回答案を作成することになりました。

(主な報告事項)

- ・小学生派遣事業中止について
- ・次世代ターゲットアスリート支援事業成果報告について
- ・中長期基本計画の策定状況と今後の予定について

第9回 令和2年3月28日理事会

(会長挨拶要旨)

- ・今回、理事会をビデオ会議で行うことが、今後の対応にも良いことだと思います。コロナウイルス感染リスクが広がっていく中、ピンチをチャンスに変えていく非常に良い事例だと思います。一方、実際に会って話すことも大切と思いますので、バランスの良い協会運営を心掛けていきたいと思います。
- ・皆さんご承知の通り、IOC、安倍首相、都知事の三者会議が行われ、事実上のオリンピックの延期が決まりました。そのうえでみなさんが興味を持ったのは、選手の選出に関してでした。IOCの方から基本的には内定を得ている選手が来年出場することをIFとの協議の中で意思統一されました。これからフェンシングとしましてはFIEの理事会で決定された後に、NFとして誰を選出するのか決定されていくことになると思われます。一方当面試合を再開するとは考えにくいので、シーズン自体がずれ込むことが考えられます。今後小さな決定でも理事間の開催待たずに理事の皆さんにはメールやLINEでお伝えしていこうと思います。日本ではまだ選手を決定しておりませんので、全ての試合が終了した後に日本選手団を決定していこうと思います。
- ・日本選手団の壮行会を6月3日に開催することを決めていましたが、オリンピックの延期に加え、6月の段階でコロナウイルスが落ち着いているとは考えにくいので、これに関しては今回中止とさせていただきます。
- ・全日本選手権大会や学連の大会なども上半期全ての大会が中止となりましたので、これから選手たちも試合をする場所が減ってくるのではないかと予想されます。皆さんのお知恵をいただきながら大学の入試にも関わる選手たちに戦いの場を作るなど、対応を考えていきたいと思っています。

- ・最後になりますが、新型コロナウイルスの終息が見えない状況下でありますので、皆さんも健康管理には十分留意していただき、フェンシングからクラスターのようなものが広がることがないように健康管理を徹底していただければと思います。

(主な議案)

- ・前回議事録の承認
- ・コーチ等行動規範の策定の件 (提案者)理事 井口加奈子
これを承認可決しました。
- ・理事会運営規程細則改定の件 (提案者)理事 井口加奈子
これを承認可決しました。
- ・利益相反マネジメント規程策定の件 (提案者)理事 井口加奈子
これを承認可決しました。
- ・リスク管理ガイドライン制定の件 (提案者)専務理事 宮脇信介
これを承認可決しました。

(主な協議事項)

- ・役員定年制の件 (提案者)理事 井口加奈子
- ・海外からの提携覚書締結検討の件 (提案者)専務理事 宮脇信介

(主な報告事項)

- ・第7回 2020 対策委員会について (提案者)副会長 齊田守
- ・令和2年度日本F協会主催・後援大会について (提案者)理事 辻村眞一郎
- ・新型コロナウイルスに対する強化本部対応について (提案者)常務理事 福田佑輔
- ・職員正規雇用について (提案者)専務理事 宮脇信介
- ・佐賀県連携協定について (提案者)会長 太田雄貴

以上

第10回 令和2年4月26日理事会

中止

第11回 令和2年5月24日理事会

(会長挨拶要旨)

- ・コロナ禍において Zoom 等デジタルを活用した理事会を行うなど以前からやろうとしていたことが進み、今後も運用し皆さんにご移動していただかなくても様々な会議ができるような状態に

なってきたとポジティブに捉えたいと考えます。

- ・先日は甲子園の中止が大きなニュースになり、そしてインターハイも中止になるなど高校生たちが目指すべき一番大きな舞台が無くなり、我々大人達はその代替案など知恵を絞らなくてはならない局面になってきていると思っております。その中で当協会の山口理事や村上理事が Zoom を活用し子供たちにトレーニングを配信し、お子さん達にフェンシングに触れる機会を率先的に作ってくださって、個人で自分たちができることを懸命にやるという姿勢には本当に感謝しております。この場を借りて御礼を申し上げます。
- ・明日、緊急事態宣言が解除する方向に向かっているとメディアが報じていますが、まだまだ様々な制限がかかっている状態だと思えます。その中でフェンシングは、国内においては今の場所にいる理事の皆さんで今から議論し決定していくことになると思えます。国際の動きとしては大きく日本国内以上にひどい地域があるので、大会を開催するということはまだ全くスケジュールすら決まっていないのが現状です。一方でオリンピックが来年開催されるとし、それに向けた動きとして、オリンピックの選手選考をまず早急に終わらせることを第 1 ミッションにしていますが、それは上半期には開催しないということは確定しています。選手たちのある程度の準備期間が必要と考えられ、このある程度が一つの争点になると思えますので、IF 国際フェンシング連盟のアスリート委員会とも協議しながら 開催日程を決めていくことになると思われま。しかし、大会を作るというのは予約を含めた会場の準備がかなり大変になってきますので、年内は事実上厳しいと見通されていますが、決められた日程でやるしかないというのが現状だという事になります。それに伴い高円宮杯の開催可否に関してもそろそろ言及があるのではないかと推測しています。今現在まだ 2020 年 21 年シーズンについては一切の方向性を FIE としては示していないが、10 月以降の通常開催はまだ難しいのではないかとこの見方が一般的な共通認識だと思われ、名古屋で予定をしている高円宮杯の開催は現状まだ決まっていますが少し雲行きが怪しくなっていると思っていただいてよろしいかと思っております。
- ・また、明日、緊急事態宣言が解除されますが、小池都知事がフェーズ 1・2・3 という状態を発表していましたが、県をまたぐ移動は極力控える要請がこの後も続く見通しが立っていますので、6 月に予定をしていました総会も議決権行使書での決議とし、議案に関する説明を Zoom にて行うことで総会を開催することになると考えています。
- ・本日の理事会は、まだ皆さんにも議案書が出せていない重要な案件を含むものがあります。多数決で押し切る協会運営はしておりませんので、皆さんからいろんなご意見頂きながら結論を出していきたいと思えます。

(主な議案)

- ・前回議事録の承認
- ・前期決算における特定費用準備金計上の件 (提案者)理事 坂俊甫
これを承認可決しました。

- ・2019 年度決算承認の件 (提案者)会長 太田雄貴
これを承認可決しました。
- ・2020 年度修正予算承認の件 (提案者)会長 太田雄貴
これを承認可決しました。
- ・理事候補選任の件 (提案者)会長 太田雄貴
山西理事(高体連)の辞任届提出にともなう新規候補者選任の議案であり、これを承認可決しました。
- ・協会事業年度変更の件 (提案者)会長 太田雄貴
予算立案等財務上の負担解消やフェンシング・シーズンとの整合性をとることによる海外遠征執行円滑化を狙いといた 3 月末から 8 月末への決算期変更の議案。助成金手続きや登録手続き等に関する議論を経て、これを承認可決しました。
- ・2020 年 6 月総会招集の件 (提案者)会長 太田雄貴
これを承認可決しました。
- ・アンチドーピング規程新規策定の件 (提案者)理事 井口加奈子
これを承認可決しました。
- ・2020 年度ミニム委員会関係事業の件 (提案者)理事 小玉和成
これを承認可決しました。
- ・2020 年国体及び全日本団体役員名簿の件 (提案者)理事 佐藤衛
これを承認可決しました。
- ・第 73 回全日本選手権(団体戦)大会要項の件 (提案者)理事 辻村眞一郎
これを承認可決しました。

(主な協議事項)

- ・第 73 回全日本選手権(個人戦)大会要項の件 (提案者)理事 辻村眞一郎
- ・大会後援依頼の件 (提案者)理事 佐藤衛

(主な報告事項)

- ・鹿児島国体可否決定について(日本スポーツ協会からの通知)(提案者)副会長 末松英司

第 12 回 令和 2 年 6 月 20 日理事会

(会長挨拶要旨)

- ・今日は特殊な理事会となっております、本来であるならばこの理事会の前に総会をする予定をしておりました。その総会をもって決算を承認した後、新たに理事会を開催する予定だったのですが、この後に説明をしていきますが、総会を招集する際に一部手続きに不備があったということがわかり、第 1 号議案にあげさせて頂いております通り総会を延期する処置を取ろうと

考えております。その第1号議案を最初に進めていく必要性があり、そのような順番になっております。今回の理事会自体は、そこが一番大きいトピックスになりますが、全ての審議事項と報告事項が終わった後に、皆さんもご心配されておりました週刊新潮の件にまつわる説明をさせていただきたく思っております。今日は本来総会を開催する予定でしたので、事務局に宮脇さんとともに東京都の中村さんに来て頂いておりますので、最初にその第1号議案にて総会延期の審議から行っていきたく思います。

・今日の審議事項自体は総会の話とランキングと沼津と全日本の個人など、総会の延期を除いては、事前に皆さんからも特に質問もなかったと思います。

・今回より Zoom で全員揃っておりますので、より活発な議論がしていければと思っております。Zoom だと聞き役に徹してしまいがちになると思いますが、皆さんも議事に対してご質問ご意見ある場合は、積極的に発言いただければと思っております。

(主な議案)

・前回議事録の承認

・2020年6月総会招集(延期)の件 (提案者)会長 太田雄貴
これを承認可決しました。

質問:誤った部分に対して今後の対応策はいかがか?また本件審議事項であるが、否決された場合総会はどうのようになるのか。

答弁:総会招集通知を一般企業の株主総会に一般的に用いられているフォーマットと同様にして、その参考資料である議案関連資料と一体化するなど、事務的ミスが発生しない様に協会事務手続き上の取扱いを変更していきたい。また、今後メールで送付するなど今後議論を行っていきたく考える。この審議が否決された場合は、東京都正会員の中村様立ち会いのもと、既に送付されております議決権行使書をもって総会を開催します。

・2020年度FJEランキング及び選手選考の件 (提案者)常務理事 飯田徳光
これを承認可決しました。

・沼津市からの大会後援申請の件 (提案者)理事 辻村眞一郎
これを承認可決しました。

主な質問・答弁は以下の通りです。

質問:本件大会日程後に開催予定していた全国小学生大会など協会主催の2大会を中止としているが、本件大会は開催しても問題ないのか?

答弁:本件大会の参加者が50名以下、及び静岡県の新型コロナの感染者が相当少なく参加地域が限定されている本件大会は、感染症対策を万全に講じることで開催すると聞いており後援することに問題ないと考えます。

・第73回全日本選手権(個人戦)大会要項の件 (提案者)理事 辻村眞一郎
これを承認可決しました。

主な質問・答弁は以下の通りです。

質問：通常全日本選手権はベスト64までポイントが付与されていたが、今回大会はベスト32からの参加ということだが問題ないか？

答弁：ランキング対象外とすることも検討した。しかし、ポイントを付与することで来年度のシードを確定するためにも決定した。

意見：新型コロナの拡大があり大会中止となった場合は、参加費の返還をする旨を大会要項に記載した方が良いと考える。

(主な報告事項)

- ・第8回 Tokyo2020 対策委員会について (提案者)副会長 齊田守
- ・東京 2020 オリパラ NF 協議会について (提案者)副会長 齊田守
- ・業務報告について (提案者)専務理事 宮脇信介
- ・かごしま国体について (提案者)副会長 末松英司

第 13 回 令和 2 年 7 月 12 日理事会

(会長挨拶要旨)

・理事会の前に総会を無事開催することができました。正会員の方からのご指摘を受け、それにしっかりと答えるような形で対応を行い、総会の開催に向けての準備からやり直すという形を取らせて頂きました。競技団体に対する目というのは常に厳しいものもありますので、信頼を勝ち取っていくという意味も含めてこうした新しくちゃんとした形をとっていかうということを心がけております。また引き続き皆さんにもご協力賜れますようよろしくお願いいたします。

・本日の流れですが、本日の審議議事自体は二つしか出ておりません。寄附に関する事項とインターハイの代替大会の件になります。そのほか、皆さんと議論または共有しておかなくてはならないことがいくつかあります。事前に皆さんにもお伝えしております通り今の強化の体制について意見がだされており、現状の共有や一連の流れに関して強化本部長、専務理事、事務局長から伝えていただき、理事の皆さんからもお気づきの点等あればお話しいたいただき、次のアクションプランを出していきたいと思っております。

・国際連盟の動きを理事の皆さんに共有したいと思っております。国際連盟の会長が総額 1 億円寄附をしました。ジュニアカデ世界選手権及びベテランの世界選手権は中止が決定しました。2021 年の世界選手権が中止になり、1 年間スライドし 22 年にエジプトの開催地立候補が決まりました。よって福岡で開催検討している世界選手権も、開催するのであれば 23 年以降になるということになります。その他オリンピックのクオリフィケーションや 2020 年と 21 年の国際連盟のスケジュールや世界ランキング決め方などになります。世界的には 11 月から世界大会を再開させたいという方針ですが、これもあくまで世界のコロナの状況を鑑みながらやっていく流れです。また、サーブルの剣が FIE の剣がマストになってきますが、正式にはオリンピック終了後から適応となります。レフリー試験も一年延期になります。一番大きいところがオリンピックのクオリフィケーションのところになります。本来オリンピック予選の最終試合だった 3 月のワールドカップもしくはグランプリと同じ場所同じタイミングで 2021 年に開催するという事を一つの目標とするとされています。結果、もし 11 月からワールドカップ等が再開したとしても、オリンピックの選考にまつわるのはこの最後の一試合で出場権が決まることになります。「凍結」されていた 20 年 3 月の時点でのランキングを「解凍」する形で、これらの 2021 年 3 月に行われる試合のみを追加的に考慮し、オリンピックの最終予選をやる事になります。

・今、国際連盟の方も face to face で会う理事会はほぼ無くなり Zoom の活用やメールでの決裁を行っています。皆さんも Zoom 等に慣れてきたと思いますが、コロナの感染者数の増加傾向を見ると大会は今までどおり開催することは、やはり簡単ではないと感じております。全日本選手権決勝も無観客で配信限定とし良かったと改めて思っております。まだまだ先の見通しが良くない状況が続きますが、資金的にもスポンサー様から協賛を断られるケースが増えてきていることを考えると、やはりしっかりと支出管理もしていけないと今後どんどん厳しくなるということを感じる昨今です。

(主な議案)

・前回議事録の承認

・寄附金等取扱規程、その他寄附に関する件 (提案者)理事 坂俊甫

これを承認可決しました。

主な質問・答弁は以下の通りです。

質問: 寄附金等取扱規程第5条に「基準を満たしている」と記載されているが、組織上のどこが判断するのか？

答弁: 事務局での判断となる。使用に関しては、会長、専務理事、財務戦略委員会で判断する。

質問: 審議議案書に記載されている「詳細の一任」は運用することへの一任か、詳細を作成することの一任かどちらか？

答弁: 審議したい内容は、寄附金取扱規程の内容に対して、及び実際の寄附金の運用に関して一任していただきたいことになる。

意見: 一任の範囲に対して疑問がある。ある一定以上は理事会案件にしてはどうか。

質問: 第4条の使途の割合は寄付を受ける際に事前に決めておく必要があるのではないかと、また、第6条の「次の原則に留意する」とあるが、原則は事前に決めておく必要があるのではないかと選手に使用する際は、強化本部長が承認または報告を受ける必要があると考える。

答弁: 50%以上は公益目的事業に使用する。第6条の「会計処理を行うにあたっては、次の原則に留意する。」の一文を削除する。

・大会の後援依頼の件 (提案者)常務理事 佐藤衛

反対多数によりこれを否決しました。

主な質問・答弁は以下の通りです。

質問: 高体連に対し後援依頼は無かったのか？

答弁: 全国高体連として全国大会を中止としているので、県単位での大会は容認できるが全国規模の大会の後援はできないとした。

質問: 箱根町開催だが、神奈川県協会に対しての働きかけは無かったのか？コロナ禍での開催に対し具体的案の記載がないが、宿泊などに対し感染予防の処置がされていると考えてよろしいか？

答弁: 神奈川県協会に対し話は無い。名義使用に関する規定第3条記載の業務遂行能力が十分であるとしているが、本大会の主催者は実行委員会とされる任意団体であり十分な業務遂行能力があると判断できない。

答弁: 濃厚接触はないと記載されているが、宿泊に関しては何ら記載されていない。

質問: 大会要項8に日本フェンシング協会に2020年度の会員登録が完了していることと記載されているが、もし審議承認された場合に任意団体や民間団体に登録に関する情報を開示して良いのか？

答弁: 登録情報の開示はできないと判断する。

答弁: エントリーが完了した際に、協会内で登録状況を確認することになると考える。しかし高校3年生は登録をしていない現状がある。

質問: もし後援しない結果になった場合、日本協会登録など日本協会と関りが無いように求めた方が良いのではないか？

答弁: 後援しない場合、その記載は削除を求める。また、JAPAN などの大会名に対しても変更を求める。

質問: 全日本選手権の日程と重なっているが、甲斐審判委員長が役員になっているが審判委員会はどのような対応をするのか？

答弁: 全日本選手権を優先することを確認している。

意見: 高校生の大会を開催されることは嬉しく思う。しかし曖昧なことが多いのが事実である。高校生に対し公欠は出ないという問題がある。

(主な報告事項)

- ・業務報告について (提案者) 会長 太田雄貴
- ・業務報告について (提案者) 専務理事 宮脇信介
- ・業務報告について (提案者) 常務理事 飯田徳光
- ・業務報告について (提案者) 常務理事 福田佑輔
- ・業務報告について (提案者) 常務理事 佐藤衛

以上